



2026年6月1日

各 位

会 社 名 株式会社コンヴァノ  
代表者名 代表取締役社長 上四元 絢  
(コード：6574 東証グロース)  
問合せ先 代表取締役社長 上四元 絢  
(TEL：03 (3770) 1190 (代表))

## (訂正) 「業績予想と実績値との差異に関するお知らせ」の一部訂正について

2026年5月15日に開示いたしました「業績予想と実績値との差異に関するお知らせ」につきまして、一部訂正すべき事項がございましたので、下記のとおりお知らせいたします。訂正箇所には下線を付して表示しております。

### 記

#### 1. 訂正の理由

2026年3月期決算に係る連結数値の精査及び監査法人との協議の過程において、暗号資産（主としてビットコイン）の会計処理に関する開示表現の精緻化、連結子会社が保有する当社株式の自己株式としての取扱い（IAS第32号第33項）の徹底、過年度法人税等の還付に係る未収法人税還付金の取消し（当初公表時に計上していた未収法人税還付金及びこれに対応する法人税等還付加算金208百万円について、再検証の結果、計上要件を満たしていないことが判明したため、取り消しました。）、並びに連結修正仕訳の見直しに伴う数値の精緻化等について、訂正すべき事項があることが判明し、2026年5月29日付で公表した「(訂正・数値データ訂正) 「2026年3月期 決算短信〔IFRS〕(連結)」の一部訂正に関するお知らせ」において連結数値を訂正いたしました。当該決算短信訂正に伴い、原開示に記載した数値の一部に訂正が生じるため、本訂正を行うものです。なお、当該訂正は当社グループの事業活動及び業績の継続性、並びに現預金残高等の資金的事実に影響を与えるものではありません。

#### 2. 訂正箇所

訂正箇所は以下のとおりであります。訂正箇所には下線を付して表示しております。

##### ① 「1. 2026年3月期通期連結業績予想と実績値との差異」

###### 【訂正前】

(単位：百万円)

	売上収益	営業利益	税引前利益	当期利益	親会社所有者帰属当期利益	基本的1株当たり当期利益
前回発表予想 (A) (2025年11月21日公表)	14,950	5,990	5,990	3,918	3,918	7.70
今回実績 (B)	15,500	1,795	1,647	△951	△951	△1.97
増減額 (B - A)	+550	△4,195	△4,343	△4,869	△4,869	—
増減率 (%)	+3.7	△70.0	△72.5	—	—	—
(ご参考) 前期実績 (2025年3月期)	3,241	135	128	78	78	0.18

(注) 1. 金額は、百万円未満を四捨五入して記載しております。

2. 基本的1株当たり当期利益は、IAS第33号「1株当たり利益」に基づき、当連結会計年度における期中平均株式数482,201,542株を分母として算出しております。当該分母は、2026年5月15日付で公表した「2026年3月期決算短信〔IFRS〕(連結)」と同一であります。前期実績(2025年3月期)の基本的1株当たり当期利益0.18円は、IAS第33.64項に基づき、2025年8月2日及び2025年9月1日付で実施された普通株式1株につき各10株(合計1株につき100株)の株式分割を、前連結会計年度の期首から行われたものと仮定して遡及的に算定したものであります。

## 【訂正後】

(単位：百万円)

	売上収益	営業利益	税引前利益	当期利益	親会社所有者帰属当期利益	基本的1株当たり当期利益
前回発表予想 (A) (2025年11月21日公表)	14,950	5,990	5,990	3,918	3,918	7.70
今回実績 (B)	<u>15,440</u>	<u>1,484</u>	<u>1,304</u>	<u>△1,178</u>	<u>△1,178</u>	<u>△2.49</u>
増減額 (B - A)	<u>+490</u>	<u>△4,506</u>	<u>△4,686</u>	<u>△5,096</u>	<u>△5,096</u>	—
増減率 (%)	<u>+3.3</u>	<u>△75.2</u>	<u>△78.2</u>	—	—	—
(ご参考) 前期実績 (2025年3月期)	3,241	135	128	78	78	0.18

(注) 1. 金額は、百万円未満を四捨五入して記載しております。

2. 基本的1株当たり当期利益は、IAS第33号「1株当たり利益」に基づき、当連結会計年度における期中平均株式数472,227,514株を分母として算出しております。当該分母は、2026年5月29日付で公表した訂正後の「2026年3月期決算短信〔IFRS〕(連結)」と同一であります。前期実績(2025年3月期)の基本的1株当たり当期利益0.18円は、IAS第33.64項に基づき、2025年8月2日及び2025年9月1日付で実施された普通株式1株につき各10株(合計1株につき100株)の株式分割を、前連結会計年度の期首から行われたものと仮定して遡及的に算定したものであります。

## ② 「2. 暗号資産期末時価評価損の影響を除いた実績値」

### 【訂正前】

(単位：百万円)

	売上収益	営業利益（同 評価損除外 後）	税引前利益 （同評価損除 外後）	当期純利益 （同評価損除 外後）	EPS（同評 価損除外後）
前回発表予想（A）	14,950	5,990	5,990	3,918	7.70 円
今回実績（B）	15,500	6,642	6,494	3,896	8.08 円
増減額（B－A）	+550	+652	+504	△22	－
増減率（％）	+3.7	+10.9	+8.4	△0.6	－

### 【訂正後】

（単位：百万円）

	売上収益	営業利益（同 評価損除外 後）	税引前利益 （同評価損除 外後）	当期純利益 （同評価損除 外後）	EPS（同評 価損除外後）
前回発表予想（A）	14,950	5,990	5,990	3,918	7.70 円
今回実績（B）	<u>15,440</u>	<u>6,331</u>	<u>6,151</u>	<u>3,669</u>	<u>7.77 円</u>
増減額（B－A）	<u>+490</u>	<u>+341</u>	<u>+161</u>	<u>△249</u>	－
増減率（％）	<u>+3.3</u>	<u>+5.7</u>	<u>+2.7</u>	<u>△6.4</u>	－

### ③ 【参考】「当期純利益（同評価損除外後）」の算出明細

#### 【訂正前】

（単位：百万円）

項目	金額	内容
税引前利益（連結損益計算書）	1,647	G A A P 実績
（＋）暗号資産期末時価評価損	+4,847	「その他の費用」より戻入れ
税引前利益（同評価損除外後）	6,494	評価損除外後ベース
（－）法人所得税費用（固定）	△2,598	G A A P ベース実績における連結法人所得税費用をそのまま固定適用
当期純利益（同評価損除外後、参考値）	3,896	補足開示

#### 【訂正後】

（単位：百万円）

項目	金額	内容
税引前利益（連結損益計算書）	<u>1,304</u>	G A A P 実績
（＋）暗号資産期末時価評価損	+4,847	「その他の費用」より戻入れ
税引前利益（同評価損除外後）	<u>6,151</u>	評価損除外後ベース
（－）法人所得税費用（固定）	<u>△2,482</u>	2026年5月29日付で訂正後の連結法人所得税費用をそのまま固定適用

項目	金額	内容
当期純利益（同評価損除外後、参考値）	3,669	補足開示

#### ④ 「3. 業績予想と実績値の差異要因の分解（GAAP → 同評価損除外後ブリッジ）」

##### 【訂正前】

業績予想と実績値の差異につきまして、当期純利益ベースでの差異△4,869百万円（前回発表予想3,918百万円 → 今回実績△951百万円）を構成要素ごとに分解いたしますと、以下のとおりであります。

（単位：百万円）

項目	金額	性質
前回発表予想（2025年11月21日公表）当期利益	3,918	—
① 本業セグメントの収益力増減（同評価損除外後・法人税固定ベース差異）	△22	法人所得税費用固定下での当期純利益ベース差異
② 暗号資産期末時価評価損（その他の費用）	△4,847	非資金性／戻入可能
③ 法人所得税費用の差異	—	法人税固定のため発生せず
差異合計：①+②	△4,869	うち暗号資産関連の影響額(②)△4,847（非資金性）
今回実績（当期純損失） = 予想 + ① + ②	△951	—

##### 【訂正後】

業績予想と実績値の差異につきまして、当期純利益ベースでの差異△5,096百万円（前回発表予想3,918百万円 → 今回実績△1,178百万円）を構成要素ごとに分解いたしますと、以下のとおりであります。

（単位：百万円）

項目	金額	性質
前回発表予想（2025年11月21日公表）当期利益	3,918	—
① 本業セグメントの収益力増減（同評価損除外後・法人税固定ベース差異）	△249	法人所得税費用固定下での当期純利益ベース差異
② 暗号資産期末時価評価損（その他の費用）	△4,847	非資金性／戻入可能
③ 法人所得税費用の差異	—	法人税固定のため発生せず
差異合計：①+②	△5,096	うち暗号資産関連の影響額(②)△4,847（非資金性）
今回実績（当期純損失） = 予想 + ① + ②	△1,178	—

#### ⑤ 「6. 事業セグメント別の売上収益及び営業利益(セグメント利益)の予想と実績値との差異 (1) 売上収益」

【訂正前】

(単位：百万円)

事業セグメント	前回発表予想 (A)	今回実績 (B)	増減額(B-A)	増減率(%)	方向
ネイル事業	3,500	3,264	△236	△6.7	下回る
コンサルティング事業	6,550	8,332	+1,782	+27.2	上回る
ヘルスケア事業	2,600	2,339	△261	△10.0	下回る
インベストメント&アドバイザー ー事業	2,550	1,565	△985	△38.6	下回る
連結 (外部顧客)	14,950	15,500	+550	+3.7	上回る

【訂正後】

(単位：百万円)

事業セグメント	前回発表予想 (A)	今回実績 (B)	増減額(B-A)	増減率(%)	方向
ネイル事業	3,500	<u>3,248</u>	<u>△252</u>	<u>△7.2</u>	下回る
コンサルティング事業	6,550	<u>8,288</u>	<u>+1,738</u>	<u>+26.5</u>	上回る
ヘルスケア事業	2,600	2,339	△261	△10.0	下回る
インベストメント&アドバイザー ー事業	2,550	1,565	△985	△38.6	下回る
連結 (外部顧客)	14,950	<u>15,440</u>	<u>+490</u>	<u>+3.3</u>	上回る

⑥ 「6. 事業セグメント別の売上収益及び営業利益(セグメント利益)の予想と実績値との差異 (2)  
営業利益」

【訂正前】

(単位：百万円)

事業セグメント	前回発表予想 (A)	今回実績 (B)	増減額(B-A)	増減率(%)	方向
ネイル事業	260	102	△158	△60.8	下回る
コンサルティング事業	1,830	2,918	+1,088	+59.5	上回る
ヘルスケア事業	1,510	1,555	+45	+3.0	上回る
インベストメント&アドバイザー ー事業	2,390	△2,832	△5,222	—	下回る
調整額 (全社費用等)	—	+52	+52	—	—
連結営業利益	5,990	1,795	△4,195	△70.0	下回る

【訂正後】

(単位：百万円)

事業セグメント	前回発表予想 (A)	今回実績 (B)	増減額(B-A)	増減率(%)	方向
ネイル事業	260	68	△192	△73.8	下回る
コンサルティング事業	1,830	2,873	+1,043	+57.0	上回る
ヘルスケア事業	1,510	1,555	+45	+3.0	上回る
インベストメント&アドバイザー ー事業	2,390	△2,832	△5,222	—	下回る
調整額 (全社費用等)	—	△180	△180	—	—
<b>連結営業利益</b>	<b>5,990</b>	<b>1,484</b>	<b>△4,506</b>	<b>△75.2</b>	<b>下回る</b>

⑦ 「2. 暗号資産期末時価評価損の影響を除いた実績値」の本文（法人所得税費用の固定に係る記載）

【訂正前】

なお、本資料における「同評価損除外後」ベースの当期純利益は、暗号資産期末時価評価損△4,847百万円のみを税引前利益から除外する一方、法人所得税費用につきましては、GAAPベース実績における連結法人所得税費用2,598百万円を固定して算定しております。当該算定方法は、暗号資産期末時価評価損の税務上の取扱い（損金不算入）に係る不確実性を排し、保守的な観点から実際の法人所得税費用負担をそのまま維持することにより、本業の収益力を最も厳格に保守的に評価することを目的としております。

【訂正後】

なお、本資料における「同評価損除外後」ベースの当期純利益は、暗号資産期末時価評価損△4,847百万円のみを税引前利益から除外する一方、法人所得税費用につきましては、GAAPベース実績における連結法人所得税費用2,482百万円を固定して算定しております。当該算定方法は、暗号資産期末時価評価損の税務上の取扱い（損金不算入）に係る不確実性を排し、保守的な観点から実際の法人所得税費用負担をそのまま維持することにより、本業の収益力を最も厳格に保守的に評価することを目的としております。

⑧ 「2. 」の【参考】算出明細に係る注記（注2・注3）

【訂正前】

(注) 2. 「当期純利益（同評価損除外後）」3,896百万円は、暗号資産期末時価評価損の影響を除いた税引前利益6,494百万円（GAAPベース税引前利益1,647百万円+暗号資産期末時価評価損4,847百万円）から、GAAPベース実績における連結法人所得税費用2,598百万円を控除することにより算出しております（6,494-2,598=3,896）。

3. 本算定は法定実効税率による正規化を行わず、GAAPベースの実際の法人所得税費用2,598百万円を固定して適用しているため、税引前利益（同評価損除外後）6,494百万円に対する実効

税率は 40.01% (=2,598÷6,494) と算定上は計算されます。当該水準は、当連結会計年度における暗号資産期末時価評価損の損金不算入に伴う永久差異等の影響を含んだ実績ベースの税負担水準を反映したものであり、日本の標準的な法定実効税率 (30.62%) を上回るものとなっております。

#### 【訂正後】

(注) 2. 「当期純利益 (同評価損除外後)」 3,669 百万円は、暗号資産期末時価評価損の影響を除いた税引前利益 6,151 百万円 (G A A P ベース税引前利益 1,304 百万円 + 暗号資産期末時価評価損 4,847 百万円) から、G A A P ベース実績における連結法人所得税費用 2,482 百万円を控除することにより算出しております (6,151 - 2,482 = 3,669)。

3. 本算定は法定実効税率による正規化を行わず、G A A P ベースの実際の法人所得税費用 2,482 百万円を固定して適用しているため、税引前利益 (同評価損除外後) 6,151 百万円に対する実効税率は 40.35% (=2,482÷6,151) と算定上は計算されます。当該水準は、当連結会計年度における暗号資産期末時価評価損の損金不算入に伴う永久差異等の影響を含んだ実績ベースの税負担水準を反映したものであり、日本の標準的な法定実効税率 (30.62%) を上回るものとなっております。

### ⑨ 「3. 業績予想と実績値の差異要因の分解」の本文

#### 【訂正前】

すなわち、暗号資産期末時価評価損△4,847 百万円が当期純損失計上の主因であり、本業セグメントの収益力は、法人所得税費用固定下の当期純利益ベースで前回発表予想に対し概ね横ばい (△22 百万円・△0.6%) の水準で着地しております。一方、税引前利益ベース (同評価損除外後) では前回発表予想を+504 百万円 (+8.4%)、営業利益ベース (同評価損除外後) では前回発表予想を+652 百万円 (+10.9%) それぞれ上回って着地しており、本業の収益基盤は前回発表予想策定時の想定を上回って堅調に拡大していることを確認しております。

#### 【訂正後】

すなわち、暗号資産期末時価評価損△4,847 百万円が当期純損失計上の主因であり、本業セグメントの収益力は、法人所得税費用固定下の当期純利益ベースで前回発表予想に対し概ね横ばい (△249 百万円・△6.4%) の水準で着地しております。一方、税引前利益ベース (同評価損除外後) では前回発表予想を+161 百万円 (+2.7%)、営業利益ベース (同評価損除外後) では前回発表予想を+341 百万円 (+5.7%) それぞれ上回って着地しており、本業の収益基盤は前回発表予想策定時の想定を上回って堅調に拡大していることを確認しております。

### ⑩ 「6. (3) ① ネイル事業」の差異発生理由

#### 【訂正前】

① ネイル事業 (売上収益△236 百万円・△6.7%/営業利益△158 百万円・△60.8%)

ネイル事業につきましては、売上収益が前回発表予想 3,500 百万円に対し 3,264 百万円 (△236 百万円・△6.7%)、セグメント利益が前回発表予想 260 百万円に対し 102 百万円 (△158 百万円・

△60.8%) となり、いずれも前回発表予想を下回って着地いたしました。

**【訂正後】**

① ネイル事業（売上収益△252百万円・△7.2%/営業利益△192百万円・△73.8%）

ネイル事業につきましては、売上収益が前回発表予想 3,500 百万円に対し 3,248 百万円（△252 百万円・△7.2%）、セグメント利益が前回発表予想 260 百万円に対し 68 百万円（△192 百万円・△73.8%）となり、いずれも前回発表予想を下回って着地いたしました。

**⑩ 「6. (3) ② コンサルティング事業」の差異発生理由**

**【訂正前】**

② コンサルティング事業（売上収益+1,782百万円・+27.2%/営業利益+1,088百万円・+59.5%）

コンサルティング事業につきましては、売上収益が前回発表予想 6,550 百万円に対し 8,332 百万円（+1,782 百万円・+27.2%）、セグメント利益が前回発表予想 1,830 百万円に対し 2,918 百万円（+1,088 百万円・+59.5%）となり、いずれも前回発表予想を大幅に上回って着地いたしました。

また、当該事業はサービス特性上の販管費率が相対的に低く、案件規模の拡大に伴いマージンが拡大するスケラビリティを有していることから、売上収益の上振れ幅（+27.2%）を上回る営業利益の上振れ幅（+59.5%）の実現につながったものであります。

**【訂正後】**

② コンサルティング事業（売上収益+1,738百万円・+26.5%/営業利益+1,043百万円・+57.0%）

コンサルティング事業につきましては、売上収益が前回発表予想 6,550 百万円に対し 8,288 百万円（+1,738 百万円・+26.5%）、セグメント利益が前回発表予想 1,830 百万円に対し 2,873 百万円（+1,043 百万円・+57.0%）となり、いずれも前回発表予想を大幅に上回って着地いたしました。

また、当該事業はサービス特性上の販管費率が相対的に低く、案件規模の拡大に伴いマージンが拡大するスケラビリティを有していることから、売上収益の上振れ幅（+26.5%）を上回る営業利益の上振れ幅（+57.0%）の実現につながったものであります。

**⑫ 「4. (5) ③ 本業との独立性」の本文**

**【訂正前】**

本業の収益力は、上記 3. の差異要因分解のとおり、暗号資産期末時価評価損の影響を除いた営業利益ベースで前回発表予想を+652 百万円（+10.9%）、税引前利益ベース（同除外後）で+504 百万円（+8.4%）、それぞれ上回って着地しております。

**【訂正後】**

本業の収益力は、上記 3. の差異要因分解のとおり、暗号資産期末時価評価損の影響を除いた営業利益ベースで前回発表予想を+341 百万円（+5.7%）、税引前利益ベース（同除外後）で+161 百万円（+2.7%）、それぞれ上回って着地しております。

以上